

**製品名: N-CoR ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14457**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	270kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NCOR1
別名	NCOR1; KIAA1047; Nuclear receptor corepressor 1; N-CoR; N-CoR1
遺伝子 ID	9611.0
SwissProt ID	O75376
免疫原	抗血清はヒト NCoR1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

**背景**

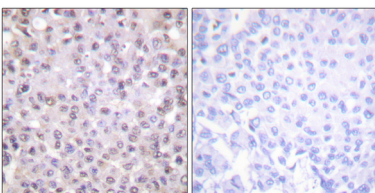
この遺伝子は、クロマチン凝縮を促進し、転写機構へのアクセスを阻害することで、甲状腺ホルモン受容体およびレチノイン酸受容体のリガンド非依存性転写抑制を媒介するタンパク質をコードする。この遺伝子は、ヒストン脱アセチル化酵素および酵母タンパク

質 Sin3p に類似した転写調節因子を含む複合体の一部である。この遺伝子は、17 番染色体上のシャルコー・マリー・トゥース症候群とスミス・マジェニス症候群の重要領域の間に位置する。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。この遺伝子の疑似遺伝子は、17 番染色体と 20 番染色体上に認められる。[RefSeq 提供、2010 年 6 月],domain: C 末端領域には、2 つの独立した核内受容体相互作用ドメイン (ID1 および ID2) が含まれており、それぞれに CORNR ボックスと呼ばれる保存配列が含まれている。このモチーフは、連結されていない核内ホルモン受容体への結合に必要かつ十分であり、一方、CORNR ボックスに隣接する配列は、核内ホルモン受容体の正確な特異性を決定します。、ドメイン:N 末端領域には、転写抑制を媒介する能力を持つ 3 つの独立したドメイン (RD1、RD2、RD3) が含まれています。、機能:特定の核内受容体による転写抑制を媒介します。ヒストンの脱アセチル化と、基礎転写因子のアクセスを阻害する可能性のある抑制性クロマチン構造の形成を促進する複合体の一部です。、PTM:ユビキチン化。SIAH2 によって媒介され、その後プロテアソームによる分解を引き起こします。、類似性:N-CoR 核内受容体コリプレッサーファミリーに属します。、類似性:2 つの SANT ドメインが含まれています。、サブユニット:SIAH2、HDAC7、SAP30、SIN3A、SIN3B と相互作用します (類似性による)。SIN3A/B およびヒストン脱アセチル化酵素 HDAC1 および HDAC2 を含む大きなコリプレッサー複合体を形成する。この複合体は、リガンド非存在下で甲状腺受容体 (TR) およびレチノイド受容体 (RAR) と会合する。DACH1 と相互作用する。N-CoR リプレッサー複合体の構成要素であり、少なくとも NCOR1、NCOR2、HDAC3、TBL1X、TBL1XR1、CORO2A、および GPS2 から構成される。TRIM28 および MJD2A/JHDM3A と相互作用する。ZBTB33/KAISO と相互作用し、この相互作用は N-CoR 複合体をメチル化 CpG ジヌクレオチドを含むプロモーター領域にリクルートする役割を果たす。HDAC9 の触媒ドメインと相互作用する。CBFA2T3 および HEXIM1 と相互作用する。C1D と相互作用する。

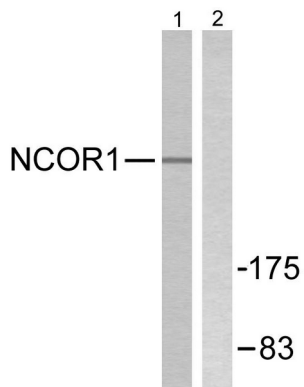
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、クロマチン修飾酵素、アセチル化、シグナル伝達、シグナル伝達経路、核シグナル伝達、核ホルモン受容体、コアクチベーター/コリプレッサー、核シグナル伝達経路、核受容体、転写、補因子、アセチル化、HDAC、クラス II / HDa1 クラス、がん、がん代謝、代謝シグナル伝達経路、脂質およびリポタンパク質の代謝、代謝、経路とプロセス、脂質およびリポタンパク質の代謝、脂質代謝、補因子、ビタミン/ミネラル

## 画像データ



NCoR1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



NCOR1 抗体を用いた MDA-MB-435 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。